

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年三月度 入選句（投稿総数千九百五十九句・一般投句数六百十四句）

特選

車椅子めがけて抛る福の豆 安八郡神戸町 後藤 和朗

節分の豆撒きの一風景。大勢の人が両手を挙げて福豆を掴もうと前へ前へと押し寄せる。車椅子の人はそれを後で見ていることしかできない。それを察した抛り手が力いっぱい年の豆を車椅子めがけて投げた。やさしさが伝わってくる句である。

卒業子以下同文の起立かな 大垣市 傍島 隆

卒業証書を渡す時、何年かの努力を思えば一人一人に全文を読み上げるのが本当なのであるが、多人数だとそういう訳にもいかない。代表の一人が校長から卒業証書を受け取り、後は名前のみ呼ばれその場での起立となる。そこはかと無くユーモアのある句である。

一日は二十四時間 日脚伸ぶ 愛知県岡崎市 鈴木 正紘

日脚伸ぶは晩冬の季語。冬至を過ぎると毎日徐々に昼の時間は長くなつてゆく。しかし冬の間はまだ日照時間も短かく寒さも厳しくて実感が無い。大寒を過ぎた頃からその感覚が始め春が近づく。昼が長くなると一日も長く感じられるが、一日二十四時間は変わらない。納得させられる句である。

秀逸

葱の味ほめられてゐる夕餉かな	不破郡垂井町	小竹 政子
開戦碑まで何もなき枯野かな	愛知県名古屋市	舘野 茂子
着ぶくれて端座の母や恙なし	愛知県尾張旭市	古賀 勇理央
しりとりになざと負けたる南風	千葉県船橋市	篠原 謙斗
早梅の香の生まれては風となる	大垣市	松岡 千代
耕人の土匂ひけり輪中館	大垣市	村田 通夫
余寒なほまた鉛筆のころがりて	大垣市	佐藤 すみ子
杉戸絵の猫の目光る花の冷え	大垣市	中山 あや子
春雪の玻璃の雫となりにけり	不破郡垂井町	久保田 紘義
先づ轍より水になる春の雪	愛知県瀬戸市	田村 清美

入選

ひそひそとくすくすと子等ヒヤシンス
年輪を幹に秘め咲く鉢の梅
雪解水はずみをつける締太鼓
本堂に読経響きて梅香る
一年生大き返事を褒めらるる
蒼天や春光跳ねる鼓笛隊
つれあいといふ佳き言葉春の宵
朝の水飲み干すコップ水温む
手袋を口にあづけて切符買ふ
木を切つて空あたらしき春の庭

東京都世田谷区	関戸	信治
安八郡神戸町	早津	郁男
大垣市	北島	暁子
大垣市	佐竹	余史美
大垣市	早崎	美弥子
養老郡養老町	田中	紫香
福井県福井市	三ツ山	ひろし
大垣市	山田	千歌子
不破郡垂井町	高木	巧
不破郡垂井町	高木	巧
不破郡垂井町	高木	巧

入選

谷汲の春待つ山にシナイ舞ふ
寒明けの水面に湯気の登りたる
薄氷こわれそうなる恋心
千年を語る鳳凰梅月夜
誰も居ぬ部屋を廻りて鬼やらひ
春泥をびよんと飛び越えランドセル
山影のとどく古墳や草萌ゆる
爺婆もそつと気付かう大試験
啓蟄の地球の微動うたがはず
家畜舎をのぞきて別れ卒業生

大垣市	戸倉	ヒロ
海津市	横井	美圭
大垣市	栗田	基弘
大垣市	安福	けい子
不破郡垂井町	児玉	信子
大垣市	片山	洋紅
大垣市	安部	芳枝
大垣市	大橋	正敏
大垣市	神野	武彦
不破郡垂井町	西垣	和志

選者吟

晴れ舞台なのに泣き面仕丁雛

武直